●コレクション・データ

時 弥生時代 前・中期

唐古・鍵遺跡第89次調査(右上) 調

第20次調査(右下)

石弾(右上)2002年、土弾1985年(右下) 大き さ 弾(右上) 長 さ 4.2 cm、 重 さ 55.7g



唐古・鍵考古学ミュージアム

KARAKO-KAGI ARCHAEOLOGICAL MUSEUM

ミュージアムコレクション 40

投弾

写真上段の球形の「投弾」は石

今回紹介する資料は、

武器や

力、

東アジアでは投弾帯の

包んだ袋の両端に、1点前後の ます。投弾帯とは、「投弾」を とセットで使われたとされてい せんが、ヨーロッパでは投弾帯 の使用法を示す出土例はありま く使われました。 うな「石弾」は、長さ4~5秒、 とも呼ばれています。このよ 者は「石弾」、後者は「土弾」 製、下段の紡錘形は土製で、前 重さ65~前後の自然の円礫が多 これまで日本では、「投弾」

馬戦が出現する以前には武器と の影響も受けないことから、騎 弓矢に比べ準備も簡単で、天候 させることも可能でした。また 170㍍であるのに対し、「投 して発達しました。 弓矢の射程距離が90から は200点先の標的に命中

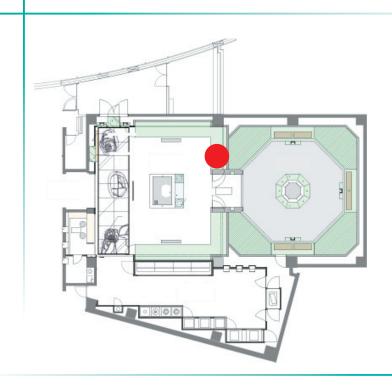
られています。 用して「投弾」を投げたと考え 取り付けたもので、腕で投弾帯 毛糸や皮革、植物繊維製の紐を をグルグルと回し、遠心力を利

狩猟具と考えられる「投弾」です。 も残ります。 で「投弾」を投げ合った可能性 と呼ばれる習俗が知られ、素手 国、朝鮮では、合戦を模して石 しています。また、日本や中 も投弾帯が分布した可能性を示 が所蔵され、かつて東アジアに 鮮北西部で採集された投弾帯 ウェーデン民族博物館には北朝 存在は不明です。ただし、ス 〔飛礫〕を投げ合う「石合戦」 弥生時代の「石弾」は、 防御

料とされています。 畿への弥生文化の波及を示す資 生時代前期にあり、九州から近 性も高く九州西北部のものが弥 方、ラグビーボール状の「土弾」 可能性が指摘されています。一 土する事例が注目され、武器の 性が指摘される高地性集落で出 狩猟具として使われた可能

関しては問題が山積みです。 資料なだけに、その位置づけに を残しています。形態が単純な その起源をめぐっては検討課題 投弾」について明らかでなく、 ただし、中国・朝鮮半島では

ミュージアム上面図と展示位置



唐古・鍵考古学 ージアム 【 \$ 34 · 7100】 ▼高校生・大学生

観覧料(カッコ内は20人以上の団体料金/15歳以下は無料 開館時間 午前9時~午後5時(月曜は休館) ▼大人 200円 (150円) 100円(50円)